大垣信金、増益に

与信関係費用抑制 純利益45%アップ

大垣信用金庫(大垣市恵比寿町、栗田順公理事長)が18日発表した2014年3月期決算は、貸出金利の低下で経常収益は減少したものの、与信関係費用を抑制できたため、純利益は9億1900万円(前期比45・0%増)の増益となった。

損益面では、預金貸出金収支は前期比3・7%減の43億2500万円。経常収益は85億9300万円(6・2%減)となった。

一方、不良債権処理額は8億円(2・8%減)。一般貸倒引当金繰入は4億1700万円と収益を押し上げ、経常利益は26・5%増の13億7300万円となった。

期末預金残高は1・5%増の5086億円。期末貸出金残高は、住宅ローンなど個人向けや、事業者向けなどが堅調に推移し、1・0%増の2601億円となった。自己資本比率は0・17ポイント低下し12・57%。

配当率は前年と同率の普通配当4%に、創立90周年記念配当1%を加えた5%。

無断複製・転載を禁じます